

平成19年度（通算第8回） 長崎自然共生フォーラム通常総会開催報告

平成19年6月23日（土）16:30～21:30
とりかぶと生活科学研究所（とりかぶと自然学校）

＜第2回幹事会＞

総会に先立って、幹事会を開いた。19年度の退会会員は8名で、74名が66名に減少したとの報告後、とくに総会での審議内容のうち決算・予算、役員改選などについて、討議した。出席者は12名。

＜総会＞

引き続き17:00から、出席者34名（うち委任状19名）で会員の過半数を得て総会に入った。恒例により、宮原会長が議長となって、議事進行した。オブザーバーとして、菅委員紹介の、中瀬昭隆氏（大村市議会議員）が同席された。

○**会長挨拶**:これまで会員相互の情報交換の場としてのHPやその体制づくりが弱かった。今後、自然共生への足がかりとして、産・官・学の協働と、市民としてのパートナーシップによって本フォーラムの活性化をはかりたい（詳しくはニューズレターを参照）。

○議事：以下のとおり。

1. 会員状況報告について

事務局から、正会員 66名（平成19年4月1日現在）
会費未納会員 1年分10名
2年分33名
19年度新入会員 2名

報告があった。（了承）

2. 平成18年度事業報告について

事務局から、原案のとおり、説明を受けた。（承認）
また、「国際造園シンポジウム」の後援のお礼があった。（了承）

3. 平成18年度決算報告について

会計担当幹事から、原案のとおり、説明を受けた。（承認）

4. 平成17年度監査報告について

監事から、適正であった旨、報告を受けた。（承認）

5. 平成19年度事業計画(案)について

事務局から、原案のとおり、説明を受けた。（承認）

6. 平成19年度予算(案)について

事務局から、原案のとおり、説明を受けた。（承認）

7. 役員の改選について

副会長に牛場 雅己氏（長崎県自然環境課長）、運営委員に富永和博氏（前

長崎県造園建設業協会長)の推薦があった。また幹事に岩永敏行・中島秀人・福田和則・姫野順一・松尾公則・松本公明の各氏を任じた旨、報告があった。(承認)

8.他団体との連携について

農業法人シュシュ社長の研究会への講師依頼。大村湾ネットワーク・大村湾をきれいにする会への参加。(承認)

9.その他

事務局から、「緑の協力隊・日本砂漠緑化協会」と「ながさき森林環境税」助成について、説明があった。(了承)

以上 すべての議案は承認・了承された。

終わりに際して、会長から会員の専門家による話など集まりの機会を増やすなど努力しようとの発言があった。また、同じく 2,3 人の合同講師による研究会などギャチャレンジした年間スケジュールを提示するように、との要請があった。

<研究会>

前出の「国際造園シンポジウム」を研究会としての位置づけ、その結果説明があった。(了承)

<講演会>

17:30 から、長崎県環境部自然環境課長 牛島雅己氏による「最近の県環境行政について」との演題で、参加者は 20 名と少なかったが、パワーポイントによるカラフルでわかり易い講演をいただいた。特に身近な問題としてイノシシについては、活発な質疑応答がおこなわれた。時間切れで討議は交流会に委ね、引き続き 18:45 から(株)エコシステムの菅社長から「とりかぶと自然学校」の紹介を受けた。

<交流会>

19:00 から、会場のドーム内で山本副会長の乾杯で始まり、オブザーバーの中瀬議員を入れて 12 名の参加者であったが、事務サポートの牧さん夫妻とエコシステム社員の山田さん・社員内定者の総科大生(窪田君)それに管理人の森さん・三原さんも加わって、講師・オブザーバーを囲んで、にぎやかに楽しく談笑した。途中、幸運にもホテルの群舞も見ることが出来、宴に興を添えた。21:30 頃、帰参組の迎えタクシーが来たので中締めとし、泊り組は 2007 年カンヌ映画祭受賞作品「瑛の森」を DVD で観賞した。なお談話は弾み、「親農の家」でダウンした時は、確か 03:00 を回っていた。翌早朝、霧の中をゆっくりと辞去した。(参加者 牛場、川里、菅、来崎、為永、富永、中瀬、中村、早瀬、松尾、宮原、山本)(五十音順)

以上